日銀短観、大企業・製造業が3期連続改善

ポイント① 製造業・非製造業ともに改善

13日に公表された12月調査の日銀短観（全国企業短期経済観測調査）によると、企業の景況感は全般的に改善し、緩やかな景気回復が示されました。大企業で見ると、製造業の業況判断DIは前回9月調査から3ポイント上回り、3期連続で改善、一方で非製造業の業況判断DIも前回9月調査から3ポイント改善と、経済活動再開やインバウンドの需要増が追い風となり、現行基準の2004年3月調査以降での最高水準を更新しました。なお、中堅・中小企業でも景況感が改善しています。

ポイント② 意欲的な設備投資計画は維持

大企業・製造業の景況感改善の背景には価格転嫁の進展に加え、加工業種では自動車で生産が回復したこと、素材業種では原油価格をはじめとする原材料価格の下落により投入コストがピークアウトしたことが挙げられます。このような状況の中で企業収益は増加傾向にあり、23年度の設備投資額は全規模・全産業で前年度比12.8%増と、企業の設備投資計画には意欲的な姿勢が示されました。コロナ禍で実行されなかった設備投資が蓄積している影響もありそうです。

ポイント③ 先行きの見通しは悪化

先行き判断DIについては、製造業、非製造業ともに悪化の見通しが示されました。製造業では自動車の景況感改善が一服しています。一方、非製造業では景況感が既に歴史的な高水準となる中で、リベンジ消費も一巡したと見られることから、小売や宿泊・飲食サービスなどで悪化が見込まれています。物価高などを背景とした国内需要の停滞や、中国などの海外経済の減速、更に円高リスクも警戒されており、先行きには注視が必要です。

大企業・製造業/非製造業の業況判断DI（ディフュージョン・インデックス）の推移

期間：2004年3月調査～2023年12月調査、四半期
・業況判断DIは景況感が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」の割合を引いた値
（出所）Bloombergのデータより野村アセットマネジメント作成

業況判断DI

（「良い」－「悪い」、%ポイント）

		2023年9月調査	2023年12月調査 最近	変化幅	先行き	変化幅
大企業	製造業	9	**12**	3	8	-4
	非製造業	27	**30**	3	24	-6
	全産業	17	**21**	4	16	-5
中堅企業	製造業	0	**5**	5	4	-1
	非製造業	19	**20**	1	14	-6
	全産業	12	**14**	2	10	-4
中小企業	製造業	-5	**1**	6	-1	-2
	非製造業	12	**14**	2	7	-7
	全産業	5	**9**	4	4	-5
全規模	製造業	0	**5**	5	2	-3
	非製造業	16	**18**	2	12	-6
	全産業	10	**13**	3	8	-5

・金融機関を除く。「最近」の変化幅は2023年9月調査との比較。「先行き」の変化幅は「最近」との比較。
（出所）2023年12月調査の短観（概要）より野村アセットマネジメント作成
（https://www.boj.or.jp/statistics/tk/index.htm）

重要イベント
12月19日 日銀金融政策発表
12月22日 日本消費者物価指数（11月）

NOMURA 野村アセットマネジメント
当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。